

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆書	隷書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
匚①	ソウ								隋然聖念人 交名紙
市									無量義經
									家諱萬象名義
									佚名白詩
匡	キョウ ただす								聖武天皇雜集
匠	ショウ たくみ								法華義疏
									聖武天皇雜集
									最澄 空海請來目錄
									聖武天皇雜集
匪	ヒ								聖武天皇雜集

【匚】「市」が元の字らしい。南北朝期に「市」に「しんにょう」が加わった異体字が現れる。「匚」は「しんにょう」を「L」のように書いたものと「市」の1画目の横線とが合体して「匚」と解釈されたものだろう。

【匡】南北朝期以降は「主+L」の字体が多数派。五経文字

〈隷省〉は「匚」に点があるが、江戸期のバージョンの五経文字には点がないので、この点は石の欠けだろうと思う。

【匠】中国の南北朝から日本の中世まで「匚」の「L」を「J」と誤った字体が多数派。

【匪】「匚」の「L」「J」と誤った字体が頻発。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												匚 匱 匠
												匚 匱 匠
												匚 匱 匠
												匚 匱 匠
												匚 匱 匠
												匚 匱 匠
												匚 匱 匠
												匚 匱 匠
												匚 匱 匠
												匚 匱 匠
												匚 匱 匠

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆家	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
区	ク								王勃詩序
區									九經・仁部
匹	ヒツ ひき たぐい								周玉集
匹									五經文字
疋	ショ ヒツ ひき あし								篆隸萬象名義
									性靈集
医	イ いやす								聖武天皇雜筆
醫									最澄
									聖賢指歸
匿	トク かくす かくれる								聖賢指歸
									聖賢指歸
十	ジュウ ジツ とと								王勃詩序
									曹全碑

【匹】「匚」の「匚」を「疋」と誤った字体がある。江戸版本に「区」の字体がある。「匹」と「疋」は異体字として扱われることがある。五經文字では「疋」を〈訛〉としている。現代中国では「疋」と「匹」を統合して「匹」のみを使う。「疋」は「足」と字体が衝突している。説文では「疋」は「足也、

「足」は「人之足也」と説明されている。
【医】「医」と「醫」はももとは別字。大徐本では「医」は「盛弓弩(おおゆみ)矢器也」、「醫」は「治病工也」とする。「醫」には「巫」に従う字がある。醫術のまじないに「巫女」がかかわったのだろうか。「醫」の略体が「医」と字体衝突

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												区 現代中国
												匹 干祿(俗) 現代中国
												疋 五經(訛) 現代中国
												医 明治の漢字 現代中国
												醫 江戸干祿(通) 江戸干祿(俗)
												匿 江戸五経(訛) 現代中国
												十 現代中国

した。「醫」の略体として「医」を使うのは江戸期からか。江戸版本では「医」が大多数。干祿字書では「巫」に従う字体を〈通〉としているが、五經文字では〈俗〉としている。文部省活字は「醫」だが、太宰治は『人間失格』の直筆原稿中、「醫」を1回、「医」を7回使っており、略体の「医」は学校

教育とは別にかなり浸透していたと推定できる。